

鉄砲洲神社詩吟 素読論語

(平成 27 年 9 月 18 日)

【四五】子路 君子を問う。子曰く、己を修めて以て敬すと。曰く、斯の如くなるのみかと。曰く、己を修めて以て人を安んずと。曰く、斯の如くなるのみかと。曰く、己を修めて以て百姓を安んず。己を修めて以て百姓を安んずることは、堯 舜も其れ猶諸を病めりと。

今、これを読んでいましたら、今の国会が浮かんできましたが、まあ酷いものだなと、こんなのを讀んだら恥ずかしくてしょうがないだろうと思います。

子路が「君主はどういうものか」と先生に聞きました。孔子が答えて言うには、「日頃から自分を磨き、人々に対して誠意を尽くすように努力をし、行いを正しくして尚且つ慎み深くすればよい」子路からすると「大変なことだとは思いますが、たったそれだけですか」と。孔子は「何を言うか今迄の人達は、全然できていないのだよ」と。今、国会では乱闘騒ぎを起こしている政治家先生方も、自分では自分を磨いているし誠意も尽くしているし、慎み深くしているとインタビューではやりますが、だけどあれだけ怒号を飛び交わして、特に女性議員はちょっとでも触れればセクハラだと怒鳴っている。道を妨害して乱闘騒ぎを起こしているから、一昔前にも二昔前にも戻った感じがします。今の女性議員は慎み深くはないなと思います。読みながら、笑い話にもならないみたいな感じで読ませてもらいました。

「曰く斯くの如くなるのみかと」孔子はこれだけ言って分からないのか、自分を磨いて行いをきっちりやれば、自ずから国民は安心して暮らせるだろう。また子路はそれだけで良いのですか、自分をきちんと行いを正しくして、誠意を持って人に接すれば君子と言えるのですね、と聞いています。孔子は、自分を磨いて上の人間が努力をしているのをみれば、国民はみな安心するものだけれども、自分を磨いて国民を安心させるというものは、堯・舜でも大変難しく出来なかった。堯・舜でも出来ないのに何故お前はそれっぽいか、それっぽいかと言うのだ。少しは自分のことを考えろと言っているのです。これはそのままスピーカーに流して国会で乱闘騒ぎをしている場に、意味を解説してあげると恥ずかしくてあんなこと出来ないだろうと思います。

ちなみに『渋澤論語』の中には、明治天皇が作られた和歌があります。明治 36 年に「民のため心の休む時ぞなき 身はここのえのうちにありてもと」渋澤栄一は、我が明治大帝は百世を安んずるためには 栄位を休んでたもうときたまえりと昔風な言い方ですが、民

百姓のことを百世国民全体のことを気にかけている明治天皇は何と素晴らしいことかと、堯・舜とならべて解説をしていました。

本当に国会で委員長あたりが、開会の冒頭時などに静かにさせて、明治天皇がこのような詩を詠まれたなんてことをしたら、恥ずかしくて牛歩戦術もセクハラ談義なんかもしないかも知れません、と言っても血が上っているから無理かもしれませんね。

余分なことを申し上げると、この頃は新聞の役目は終わったかと最近は思います。反対意見は日本のマスメディアは大いに流しますが、全部反対の話ばかりです。公平に流していません。情けないことです。賛成意見も多少はあるのに、圧倒的に反対意見を流します。針小棒大に流しますから、何も分からない日和見の人は、これだけメディアが流すから反対一色なのだろうと感じます。

日本の中で賛成の話は出ないし、諸外国のメディアが流している日本の安保法制案が通ったら、日本はどう変わるかということ各国では解説を流しています。日本がこれですと仲間入りするという論調が多いことは一切流さない。これはいつかの大地震の時も日本の中に情報は流さないけれど、外国向けには日本の情報は流れていた。というのと似ています。ここ一年来は日本の情報は日本の中できちんと伝わらない。外国から来ているメディアは正しい日本の情報を取るために、定期的にシンガポール、香港、オーストラリアに行って日本の情報を取り、また日本で裏付けを取る。日本の情報を取るためには外国に行かないと取れないということが、今の外国メディアの情報の取り方だそうです。

今の日本の情報の流しかたは、奇怪なとかとてもおかしい歪な形になっていると思います。